

天皇の代替わりに関する教団声明

政府は2018年4月3日、天皇の代替わりに伴う儀式の基本方針を閣議決定しました。そして2019年4月30日に現天皇の退位と翌5月1日には新天皇即位に関する儀式の基本方針を決めました。それによれば前例踏襲を基本とし、「剣璽等承継の儀」、「即位礼正殿の儀」を国事行為として、「大嘗祭」を公的行事とすることを決めています。私たちは以下の点を憂慮し、天皇代替わりの諸行事に反対の意を表明します。

1、安倍内閣が強行しようとする憲法「改正」は、天皇を元首にすえ、自衛隊の存在を9条に明記するなど「天皇主権のもとで戦争の出来る」国造りを思わせる動きであり、このような中で来年に新天皇の即位を国事行為として大々的に行おうとすることは、国民主権を踏みにじり、思想信条の自由を侵し、政教分離の原則に違反する重大な憲法違反です。

2、皇室の伝統的な行事であるとされている天皇代替わりの諸行事、とりわけ大嘗祭の行事は天皇が神と一体となって国民を支配してゆくことを祈禱する行事と言われ、天皇崇拝を助長する懸念があります。この行事に対し国の税金が使われることは重大な問題です。

3、さらに現天皇退位と新天皇の即位にマスコミがこぞって「祝賀報道」を行い、学校などの教育機関に無理やり「日の丸・君が代」を活用させて、祝賀ムードに動員しようとする動きは、断じて認められません。

以上のことから、私たちは「神以外の何者も神としてはならない、隣人を愛せよ」との聖書の教えに生きるキリスト者として、天皇の代替わりに関する諸行事に反対します。

2018年10月28日

日本自由メソヂスト教団 総会議長 大井清美